



阿部社長

## 心を引きつけるガーデンがほんとに沢山ありました

「イングリッシュガーデン」の素晴らしさは世界の周知するところですが、実際に訪れて思う事は、庭や植物、人々の花に対する思い入れと景観を大切に育む英国人のライフスタイル、その歴史とガーデン文化、さすが「園芸王国」の感を拭えませんが、日本との違いを何より強く感じたのは、石造りの建物文化ゆえの美しさと空間構成のバランスの良さです。田舎の建物は実にシンプルですが、植物とのコーディネートがうまく何とも豊かな演出がなされています。白夜のせいでしょうか？いつまでも暮れない庭に、帰宅した人達が一所懸命手を加えていました。時間がたっぷりあるのか、使い方がうまいのか、昔から庭いじりが人々の日課に定着しているのですね。共に景観づくりに励むという意識の中で、隣人とも良い関係になっているのではないのでしょうか。日本でも昔はそうであった筈なのですが…。数多くのスナップ写真の中から、いくつかをご紹介します。



エジンバラの素晴らしい花時計



素晴らしい典型的なコテージガーデンは花が次々咲くように開花サイクルを考えてある



自然石と芝生、手垢が美しく調和したエントランス



さりげないポケットパークも贅沢な空間



どこへ行っても花盛り、組み合わせがとても美しい建物のフロントも立派なウォールガーデンに

見渡す限りのなだらかな丘陵に、溢れんばかりの花に飾られた家々が点在するカントリーサイド…今もその情景が臉の奥に強く焼き付けられています。私にとって初めてのイギリスの旅は、スコットランドの首都エジンバラを起点に、ピーターラビットの故郷・湖水地方を経てシェークスピアカントリー、蜂蜜の家並みが印象的なコッツフォルズ、そしてオックスフォードまでの約2000キロ…車窓からの眺めに心を奪われ、あっという間の7泊8日でした。

川辺や公園など、至る所で穏やかな夏の日差しを浴びて日光浴をする人々に誘われ、私もつい気持ち良く庭を散歩するうちに集合時間に遅れ、ガイドさんを困らせたりしたのでした。…いや、いつの間にか人を引きつけるプライベートガーデンがほんとに沢山あったのです。今回の旅で得た事柄は今後のプランに存分に生かそうと心していますが、重要なのは、そのままの引用ではなく、建物や文化の違いを認識し、日本の気候風土と現場の状況を良く把握する事だと考えています。…今回は田舎の旅でしたが、また機会があれば、是非ロンドンを中心に都会の中の庭をめくりたいですね。



小さな庭も素材の組み合わせの工夫が感じられる



街で見かけたEX工事、石組にウッドフェンスが映える



田舎の庭の一角もなんとなくおしゃれな小物が溢れる

2000年開催のご案内とチケット入手法

●開催日：2000年5月23～26日（一般招待は25・26日）

●申込先：英国王立園芸協会日本支部 TEL 03・3984・9690



食材となる植物をテーマに都会風のルーフガーデンにまとめたジェフズ・ガーデン



ピーターラビットの世界をテーマにした野菜畑のあるマクレガーズ・ガーデン



タワーから水が落ち、水面を浮遊するプランター…やすらぎのフローティング・ガーデン